

外界を隔てる空間操作とその境界心理に関する研究 —ジョージ・A・ロメロ監督のゾンビ映画を対象として—

指導教員 加茂紀和子 教授

渡邊香帆

1. 研究の背景と目的 新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経て、建築空間において外界を隔てる空間操作を考えざるを得ない状況にある。ゾンビはヒトを襲い、噛まれるとそのヒトもゾンビになるという特性を持つことからパンデミックと共通の性質を持つと言える。本研究は、ゾンビ映画に見られる外界を隔てる空間操作を境界心理^{注1}の観点から整理・分析を行うことで、空間操作がヒトの心理に与える影響を把握することを目的とする。

2. 研究概要 ゾンビ映画の第一人者であるジョージ・A・ロメロ監督の3作品^{注2}を対象とする(表1)。時代と共にゾンビが恐怖の対象から共存の対象へと変化し、境界心理に変化が見られた為、研究対象として選定した。研究方法は空間操作で隔てたことによって生まれたゾンビとの境界を、ヒトが越境または防衛^{注3}に試みるシーン(以降 境界シーン)を抽出・整理し、外界を隔てる空間操作と境界心理の分析を行う。

3. 境界シーンの抽出・整理 既往研究¹を参考に対象作品内に舞台^{注4}を設定し、舞台の構成割合・ゾンビとヒトの登場比・時間変化に伴う舞台の出現傾向を踏まえて、舞台推移図^{注5}の複数の舞台のショット^{注6}が交互に切り替わる部分とヒトとゾンビのショットが交互に切り替わる部分を境界シーンと定め、該当箇所の抽出を行ったところ、合計で86の境界シーンを抽出した(図1)。そして境界シーン毎にシナリオ・感情・舞台・ヒトの行動パターン・空間操作・空間の模式図をデータシートに整理した(図2)。

4. 境界シーンに現れる空間操作

4-1. 境界の構成での分類 86の境界シーンに現れるヒトとゾンビの境界の構成での分類を行ったところ、境界を壁面で分ける〈壁面型〉、死角により境界が生まれる〈死角型〉、ヒトとゾンビの領域のレベル差による〈異層型〉の3分類を得た(図3)。

4-2. 空間の状況把握での分類 86の境界シーンでのヒトによる空間の状況把握について分類を行ったところ、視界が良好な[把握 良]、視界が一部遮られている[把握 並]、視界が完全に遮られている[把握 悪]の3分類を得た(図4)。

4-3. 空間操作の類型化 境界の構成と空間の状況把握の組み合わせにより、境界シーンに現れる空間操作の9類型を示す(表2)。〈異層型〉-[把握 並]はヒトとゾンビの領域のレベル差により a と b に分け

表1：研究対象

番号	作品名	制作年	ストーリー概要
I	ナイト・オブ・ザ・リビングデッド	1968	ゾンビという未知の存在に恐怖し、7人のヒトが街はずれに建つ一軒の民家に逃げ込む。ゾンビに囲まれた民家の中で言い争いを経て、協力して脱出に試みる。
II	ゾンビ	1978	「死んでも蘇り、ヒトを食う」という特徴が浸透した時期。何でも揃うショッピングモールにて、沢山のゾンビに立ち向かい、生活用品を確保して拠点にする。
III	死霊のえじき	1985	ゾンビで溢れ、ヒトがマイノリティになった時期。地下基地では、ゾンビとの共存を目指す博士がゾンビの解明を試みる中で、共存に反対するヒトとの対立が起こる。

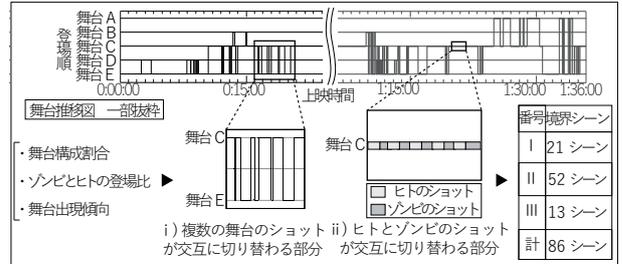


図1：境界シーン抽出方法

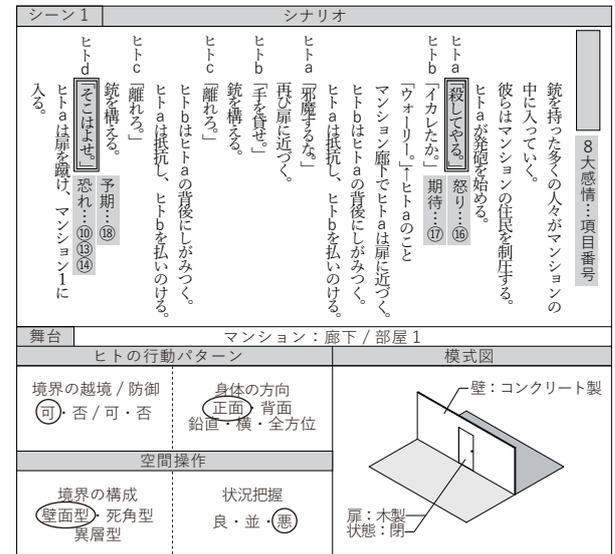


図2：データシート例

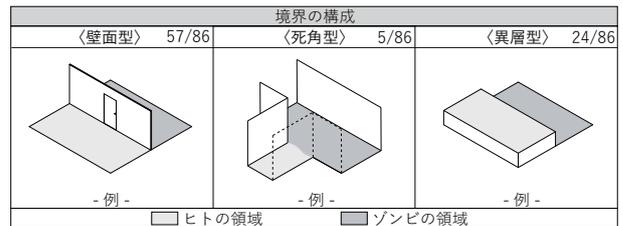


図3：境界の構成における分類

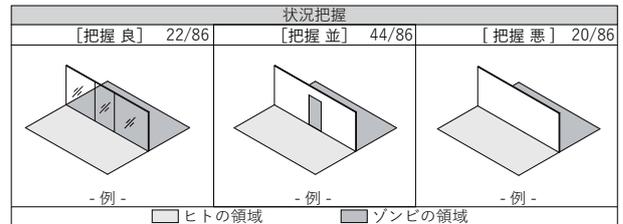


図4：ヒトの状況把握における分類

表2：境界の構成と空間の状況把握の組み合わせ

状況把握	構成	〈壁面型〉	〈死角型〉	〈異層型〉	合計
[把握 良]		16	3	3	22
[把握 並]		23	2	11	44
[把握 悪]		18	0	2	20
合計		57	5	24	86

a: 段差を要するレベル差
b: 梯子を要するレベル差
※〈死角型〉-[把握 悪]は該当シーンがない為、類型に含めない。

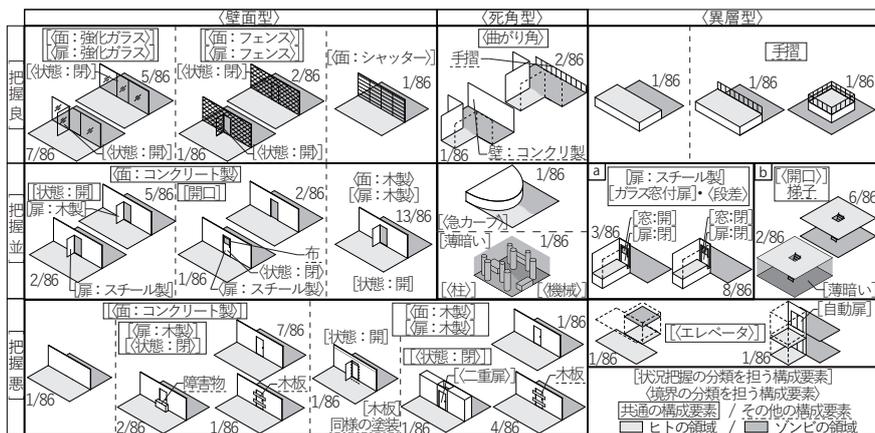


図5：空間操作の種類

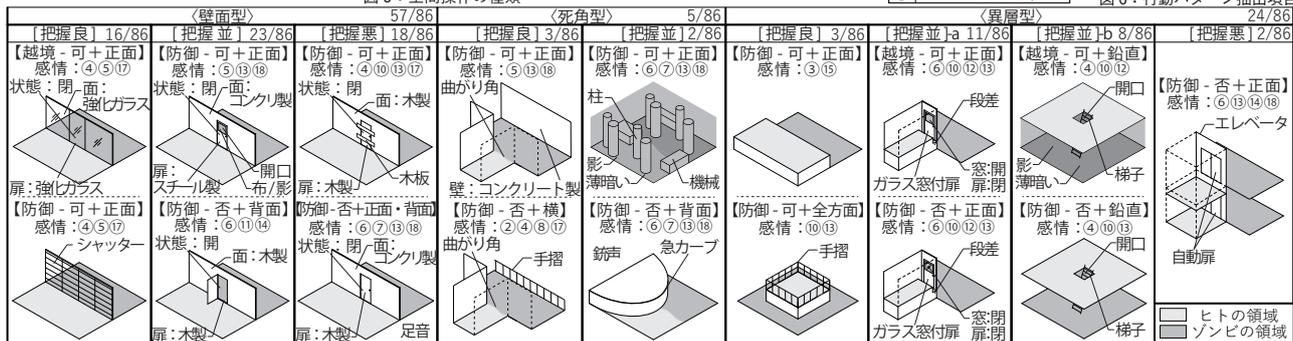


図7：各類型の境界心理例

た。さらに、境界面のマテリアル、開口部の状態、付加物の関係から31類型を抽出した(図5)。

5. 境界心理の抽出 86の境界シーンでのヒトの感情と行動の2項目から境界心理の抽出を行った。

5-1. ヒトの感情の抽出・分類 境界シーンのシナリオから「人間の8大感情」^{注7}に基づいてヒトの感情の抽出を行ったところ、18つに分類した(表3)。

5-2. ヒトの行動パターンの抽出 境界シーンにおけるヒトの行動パターンを状況【越境または防御の可否】と境界に対するヒトの身体方向【正面・背面・鉛直・横・全方向】の組み合わせで抽出した(図6)。

6. 外界を隔てる空間操作とその境界心理の関係

境界シーンの空間操作と境界心理との関係を分析し、各空間操作特有の境界心理を例示する(図7)。

〈壁面型〉-〔把握良〕は強化ガラス等の強固である且つ視界が良好な面で構成される為、越境・防御共に④⑤⑦の感情が表れ、その場を安全であると信頼し、次の作戦に移る機会を伺う傾向がある。

〈壁面型〉-〔把握並〕は生活にありふれた壁面である為、【防御-可+正面】では⑤⑬⑱の感情、【防御-否+背面】では⑥⑪⑭の感情が表れ、境界面を認識して防御可能な場合はゾンビの存在を予期して恐れる一方、認識できずに他の場所に居るゾンビを恐れている場合はゾンビに襲われてから気づき、驚く傾向がある。同様の傾向が〈死角型〉-〔把握良〕にも見られた。但し【防御-否+横】で②④⑧⑱の感情が表れ、死角によって認識できず、その場を信頼して前の出来事が上手くいったことを喜ぶ傾向が見られた。

〈壁面型〉-〔把握悪〕は【防御-可+正面】で④⑩⑬⑱

表3：感情の項目

番号	境界シーンに現れる感情
①	ヒトに会えた 喜び
②	容易に越境できる
③	ヒトへの
④	境界が安全である信頼
⑤	状況把握出来る
⑥	ゾンビへの
⑦	音や気配に対する驚き
⑧	ゾンビに襲われる
⑨	現実への 悲しみ
⑩	ゾンビへの
⑪	他の所のゾンビへの
⑫	越境できない 恐れ
⑬	防御できない
⑭	状況把握出来ない
⑮	ゾンビへの 嫌悪
⑯	ゾンビへの 怒り
⑰	作戦が上手くいく 期待
⑱	ゾンビの存在を 予期

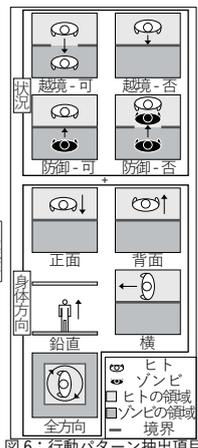


図6：行動パターン抽出項目

の感情が表れ、ヒトは外界を恐れて閉じた扉に自ら補強を施すことで境界面に対する信頼や期待が高まる傾向がある。【防御-否+正面・背面】では⑥⑦⑬⑱の感情が表れ、足音などの外界からの行為に対して過敏に反応する傾向がある。また〈死角型〉-〔把握並〕でも同様の心理が見られ、防御できない傾向にある。

〈異層型〉-〔把握良〕は【防御-可+正面】で③⑱が表れ、【防御-可+全方面】で⑩⑬の感情が表れたことから、外界に接する面が増えると防御できないことへの恐れが他の感情より強まる傾向がある。

〈異層型〉-〔把握並〕-aはヒトの領域にゾンビが届く高さに位置し、ガラス窓を叩く等の外界の影響を受け、越境・防御共に⑥⑩⑫⑬の恐れや驚きの感情が生まる傾向にある。〔把握並〕-bは【越境-可+鉛直】で④⑩⑫、【防御-否+鉛直】で④⑩⑬の感情が現れ、梯子を要する高さに位置することへの信頼と越境・防御できない恐れで葛藤する傾向にある。

〈異層型〉-〔把握悪〕は⑥⑬⑭⑱の感情が表れ、ゾンビの存在を予期して恐れるが、故意でないエレベータの昇降によって防御できない傾向にある。

以上よりゾンビ映画における外界を隔てる空間操作と境界心理との関係を把握することができた。

【注】1)ヒトとゾンビの境界で起こる出来事に対して、ヒトの感情、身体に反応を起こし、行動に影響を与えるものを指す。2)ロメロ監督のゾンビ映画全6作品のうち、「ロメロのゾンビ3部作」と呼ばれるものを対象作品とする。3)ヒトとゾンビの境界で起こる出来事のうち、越境とはヒトとゾンビの境界を越える行動、防御とはゾンビからヒトの領域を守る行動を指す。4)物語に関わる出来事が現れるシーンの場所を指す。5)舞台が現れる順番とショット数を基に時間変化に伴う舞台の出現傾向を分析する際に用いる図のことを指す。6)画面が切り替わるまでの連続した映像のことを指す。7)1980年にアメリカの心理学者ロバート・ブルチックが提唱した「感情の輪」を構成する8つの基本的な感情のことを指す。喜び…希望が達成されたときや優しさを感じた時の爽やかな気持ち、信頼…心配することなく、信じて安心できる気持ち、驚き…予期しない事象を体験した時の瞬間的な感情、悲しみ…物事がうまくいかなかった時や、大切なものを失った時に感じる残念な気持ち、恐れ…害悪や危険な事柄に対して逃避したいと感じる気持ち、嫌悪…憎み嫌ひ、不快に感じる気持ち、怒り…侮辱されたり傷つけられたりした時に起こる不快な気持ち、期待(予期)…事柄が自分の思い通りになることを望む気持ち

【参考文献】1) 若山滋、今枝菜穂、夏目欣昇：ドイツ表現主義映画にみられる建築空間、日本建築学会計画系論文集、第73巻、第626号、875-881、2008年4月